

そうだ、きさいち植物園に行こう！

Let's go Kisaichi botanical garden



7月 8月



温帯性スイレン

- 1880~1900年にフランスの園芸家マルリアクが多数の交配種を作りだした
- 花の色に白・桃・赤・黄はあるが、紫と濃紅色がない
- 画家モネの大作「睡蓮」は非常に有名。全ての品種が昼咲きで、夜咲きはない

7月 8月



キョウチクトウ

- インド原産の常緑低木で、観賞用として庭園や街路樹に植えられる
- 夏に枝の先に香りのある美しい花が咲く
- 夾竹桃の語源は葉が狭い笹の葉に、花が桃の花に似ているため

7月



アメリカデイゴ

- 熱帯アメリカ原産で、日本には明治時代に観賞用で導入された
- 長さおよそ5cmの真っ赤な花。がくも赤い
- アルゼンチン、ウルグアイの国花

7月 8月



トケイソウ

- ブラジル原産の多年生つる植物。長さ4m前後にも成長する
- 夏に8cm前後の太陽に向かって開く花。かすかに香りがある
- 語源は3つに分裂したおしべが時計の長針・短針・秒針に見えることから

※気象状況により開花時期は前後します。現在の開花状況は植物園までお問い合わせください。

こぼれ話

今年は新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休園のため、園内が様変わりしています。

4月は、入口の芝生広場をはじめ、桜山や東屋周辺などタンポポの花の後イネ科の野草やシロツメクサの花が一斉に咲いていました。

また、人が少ないせいか、イノシシと思われる動物がハナハス(レンコン)をほぼ食い尽くし、クログワイなどの水生植物まで被害に遭っています。

本格的な夏になり水辺の植物が涼しそうに咲いています。この水生植物、ハスとスイレンの見分け方をご存じでしょうか。

違いは、スイレンは葉が水面に浮いて花もほぼ水面近くに咲く。ハスは葉が水面より立ち上がり花も同じぐらい高く咲きます。ぜひ、実物でこの違いをご覧ください。



タンポポとシロツメクサ



動物に荒らされた水生植物



スイレン



ハス

大阪市立大学理学部附属植物園 (愛称：きさいち植物園)

● ☎ 891-2059 ● 交野市私市 2000 (私市駅徒歩 6分) ● HP <https://www.sci.osaka-cu.ac.jp/biol/botan/>

● 開園時間 9:30 ~ 16:30 (入園は 16:00 まで) ● 休園日 月曜日 (祝休日の場合は開園)

● 入園料 大人 350 円 / 中学生以下無料 ● 駐車料 普通車 500 円 / マイクロ 1,000 円

※ 65 歳以上は「植物園メイト」に登録すると入園料が無料になります。



星ノ町 レジェンド



関西を代表する西洋建築史家

むかいまさや
向井正也

1918年—2014年

向井正也は大正7年(1918年)、森に生まれました。父親の寛三郎は京都高等工芸学校(現在の京都工芸繊維大学)の図案科教授で、ドイツで室内装飾や建築を学んだ経験を持ち、日本でのデザイン研究を深めたことで知られている人物です。

そんな父の影響もあってか、正也は京都帝国大学(現在の京都大学)で建築を学び、太平洋戦争終了後に京都市立美術学校(現在の京都市立美術大学)で助教授を務め、その後神戸大学で教授となりました。西洋建築史を専門とし、特にモダニズム建築研究の第一人者として活躍しました。また、建築界で権威ある賞の選考委員を務めたり、トヨタのカーデザインを手がけたりするなどの活躍もしています。

正也の交野での業績のひとつが、昭和36年(1961年)に建てられた第一中学校にあるモニュメントです。この学校(建設時は交野町立中学校)は交野町で初めての鉄筋コンクリート造の中学校となるため、当時の山野清町長の「東洋一の学校を目指す」というコンセプトのもとに建築されました。

正也は、その象徴となるモニュメントのデザインを手がけました。中央のハトと手のひらは「平和と教育」、左のペンが「学芸」、右のダンベ

ルは「スポーツ」を意味し、この学校で学ぶ生徒たちの健やかな成長への願いが感じられます。

このデザインを造形したのが、京都市立美術学校で正也と同僚であった藤本能道という人物です。藤本は昭和61年(1986年)に「色絵磁器」で人間国宝に認定されるほどの人物です。

後にそれぞれの道で大家となる2人の共同作業により作られたモニュメントは、東洋一の学校を目指して建築された中学校に華を添えました。現在も校舎西側の道路から、壁面を飾るモニュメントを見ることができますので、近くに立ち寄った際はぜひ眺めてみてください。



建設当時の第一中学校とモニュメント



モニュメント